

第1回九州圏広域地方計画プレ協議会 議事録

日 時：平成18年11月30日（木）15：30～18：00

場 所：福岡建設会館 8F大ホール

出席者：出席者名簿のとおり

1. 開会

2. 国土交通省挨拶

渡邊 国土計画局長 挨拶

小原 九州地方整備局長 挨拶

3. 議事

(1) 規則について

○資料1について、事務局から説明。

○質疑なし

●規則は、案のとおり了承され、平成18年11月30日より施行することとなった。

(2) 構成機関について

○資料2について、事務局から説明。

○質疑

・委員 福岡県、佐賀県、長崎県を管轄する福岡財務支局を九州圏広域地方計画プレ協議会（以下「プレ協議会」という。）のメンバーに加えていただきたい。

・事務局 九州圏広域地方計画協議会（以下「本協議会」という。）の前身であるプレ協議会の構成機関は、本協議会と同一のものと考えており、財務局の下部組織である財務支局を正式なメンバーとして取扱うのは難しい。分掌実態、組織上の取扱いを踏まえ、今後調整させていただきたい。

・委員 定足数のカウントには、追加メンバーも含まれるのか。

・事務局 貴見のとおりである。

●構成機関は、案のとおり了承された。

●プレ協議会委員及びプレ協議会幹事会委員についても、名簿案のとおり了承された。

(3) 今後の作業について

○資料3について、事務局から説明。

○質疑

・委員 委員会構成とテーマ区分のイメージ（資料P11）のどの部分を本日の会議で決定するのか。また、テーマ区分のうち、地域振興系と経済社会系の違いは何か。

資料P6～7の論点整理案は、今後何かに活用する予定はあるのか。

・事務局 本日は、プレ協議会や本協議会の運営にあたっては検討小委員会・学識者懇談会を活用するという大枠の進め方についてご検討いただきたい。

地域振興系は、森林の保全、農村の再生、中山間地域の維持といったテーマについて、観光資源等の地域資源を活用しながら、自立的発展を目指す九州のあり方を検討するものである。また、経済社会系は、東アジアとの連携や、そのための内発的振興を図る上での経済の仕組み・ツール等を議論するものである。

論点はデータバンク化し、新たなテーマとミキシングしつつ、検討小委員会での議論を充実したものにしたいと考えている。

- ・委員 検討小委員会の重複部分の整理のしかた、参加者やプレ幹事会との違いについて伺いたい。
- ・事務局 ゲストスピーカーを招くなど、NPO等を含めた多様なジャンルの方から意見をいただきながら、政策の縦割りにならぬよう横断的な調整も検討していきたい。
検討小委員会への各県からの人選はお任せすることとし、プレ幹事会についても、できるだけ効率的となるよう調整していきたい。
また、検討小委員会での議論の情報を学識者懇談会とも共有しつつ、円滑に協議会をまとめていきたいと考えている。
- ・委員 資料P6～7の論点はかなり広範に及んでおり、議論が拡散してしまう恐れがあるため、計画のイメージ、着地点をスタート時点である程度整理しておく必要があるのではないか。
- ・事務局 広域地方計画の議論にあたっては、検討小委員会において多方面からの意見を聴く場を用意し、できるだけ多くの論点を抽出して、むしろ一度議論を拡散させるという過程も必要だと考えている。全国計画において、計画部会に各専門委員会を設けているが、広域地方計画にも同様のプロセスを入れて議論を深めたい。
広域地方計画の着地点については、全国計画を九州版に置き換えて、それに九州らしさを加えるということになる（資料P11参照）。
- ・委員 検討小委員会で議論する事項について、10年後を見据えた九州全体の調整を国側で十分やっていただきたい。県としてもいろいろと意見を述べさせていただきたいと考えている。
- ・委員 人口減少、財政的な制約の中での計画なので、これまでの全総計画のように、各地方の要望をまんべんなく取り入れるのではなく、広域的な視点で議論し、実現可能となるよう、メリハリを意識した、九州の目指す方向性がはっきり見えるような広域地方計画にしなければならない。
また、そのためには、今後設置される学識者懇談会の意見を最大限尊重するという姿勢が必要である。

●具体的な点について、事務局から照会をかけながら作業を進めることとなった。

(4) その他

特になし

4. 広域地方計画について話題提供

北九州市立大学 矢田 俊文 学長 による講演 (別添「資料4」参照)

5. 閉会

上村 九州地方整備局副局長 挨拶

— 以 上 —